



GAS MUSEUM がす資料館 ギャラリー テーマ展

「銅版画とともにみる明治の東京」展

会期:2014年 3月 5日(土)~ 6月 8日(日)

会場:< GAS MUSEUM がす資料館>ガス灯館2階「ギャラリー」

ごあいさつ

GAS MUSEUM がす資料館では、ギャラリー テーマ展として、「銅版画とともにみる明治の東京」展を2014年 4月 5日(土)から 6月 8日(日)までの期間、開催します。

明治時代になると、それまでの印刷技術の主流であった木版に併せ、石版や銅版といった新しい印刷技法が伝わりました。東京に新しく登場した建物や橋などの開化風俗の様子や、不忍池や浅草寺などこれまでと変わらない風景は、木版画のほか石版画や銅版画でも描かれて人々の手に渡りました。

明治20年代には、写実的な描写表現ができる石版画は数多くの作品が制作される一方、銅版画は切手や紙幣などの緻密で大量の印刷用途や、一枚物の作品のほか、本の挿絵などにも用いられました。

今回はハガキサイズ紙面上に表現された、銅版画による細密な東京風景と合わせ、同時期の木版画や石版画46点と比較展示することで、文明開化期の東京の様子を、表現の違いより展示紹介します。

GAS MUSEUM がす資料館

■展示作品一覧

【展示解説】

学芸員 高橋 豊

吾妻橋

1885年(明治18)の洪水により流失した木造の吾妻橋は、1887年(明治20)に鉄橋として改架されました。この橋は長さ八一間(約147m)、幅七間四尺(約14m)の車道と人道に分けられた、隅田川に架かる最初の鉄橋でした。

関東大震災で受けた被害を補修され利用されましたが、1931年(昭和6)に現在の橋へ改架されました。

1)東京名勝三十六景 吾妻橋真景

尾関トヨ 1889年(明治22)

2)東京名所 浅草吾妻橋之図

楊斎延一 1890年(明治23)



3)吾妻橋真景

尾関トヨ 1889年(明治22)

新吉原

4)東京名勝三十六景 新吉原夜景

尾関トヨ 年代不明



5)新よし原はん栄之図

井上安治 1885年(明治18)

6)新吉原夜景

尾関トヨ 年代不明

王子滝野川

高台の飛鳥山とともに眼下を流れる石神井川が刻んだ渓谷は、行楽の場でもあり、特に明治の東京では、紅葉の名所として知られていました。

作品には川沿いに建つ料亭の建屋も見えますが、現在では河川改修工事が行われたため、川沿いの風景は一変しています。

7)東京名勝三十六景 王子瀧之川真景

尾関トヨ 年代不明

8)東京大日本名勝之内 王子茶亭之庭園

勝山繁太郎 1891年(明治24)

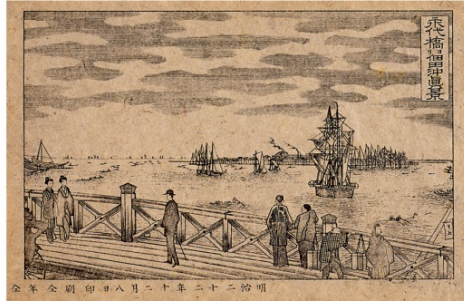
永代橋

作品に描かれている永代橋は、1875年(明治8)に改架された橋で、長さ百五間(190m)、幅六間三分(11.4m)の洋風木造の橋でした。

その後1894年(明治27)に鉄橋に改架された橋は、江戸時代に橋のあった場所より200m程上流に架けられました。



関東大震災際で被害を受けた橋は、1926年(大正15)12月に新たに改築され、当時は隅田川に架かる最も河口に近い橋でした。



9) 東京名勝三十六景 永代橋ヨリ佃田沖真景
尾関トヨ 1889年(明治22)

10) 新製造掛永代橋往来繁華佃海沖遠望之図
歌川国政(四代) 1875年(明治8)

上野停車場



11) 東京名勝三十六景 上野停車場真景
尾関トヨ 1889年(明治22)

12) 東京銘勝会 上野鉄道館
歌川国利 1884年(明治17)

不忍池

天海大僧正は上野の山を比叡山に見立てたのに対し、不忍池は琵琶湖になぞらえ、池のまん中には島を築いて弁天堂を設けました。
作品に描かれている単層入母屋の建屋は戦災で焼けてしまい、1958年(昭和33)に復興されました。一方湖上に咲く蓮の花は、現在も変わりません。

13) 東京名勝三十六景 上野不忍池真景
尾関トヨ 年代不明



14) 東京名所 不忍池乃景
蘭舟 1898年(明治31)

清水堂

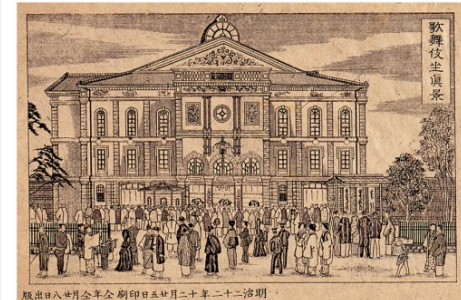
15) 東京名勝三十六景 上野清水真景
尾関トヨ 年代不明

16) 上野清水観音之景
清水市郎 1887年(明治20)

歌舞伎座

作品に描かれている初代の歌舞伎座は、1889年(明治22)に竣工しました。外観はレンガ積み三階建ての洋風ですが、内部は照明こそ電灯を使用しているものの、ヒノキ張りの内装に枡席を配置した旧来の様式でした。

震災や戦災を経て、現在五代目の建物で歌舞伎を楽しむことができます。



17) 東京名勝三十六景 歌舞伎座真景
尾関トヨ 1889年(明治22)

18) 東京大日本名勝之内 歌舞伎座繁栄
勝山繁太郎 1891年(明治24)

靖国神社

19) 東京名勝三十六景 九段招魂社真景
尾関トヨ 年代不明

20) 東京名所之内 九段坂靖国神社
歌川広重(三代) 年代不明

新皇居

江戸城に置かれた皇居は、1873年(明治6)の火災のために赤坂の地を仮皇居としました。

再建計画はさまざまな要因で、なかなかまとまりませんでした。結果として和風の形式を中心に一部洋風を取り入れた建物となりました。

1888年(明治21)に完成した皇居は、関東大震災は乗り越えたものの、戦災で焼失してしまいました。

21) 東京名勝三十六景 新皇居真景
尾関トヨ 年代不明



22) 皇居御造営略景
小林幾英 1888年(明治21)

**二重橋**

現在は皇居正門前に架かる石橋を一般的に二重橋と呼びますが、正式名称は「皇居正門石橋」になります。1887年(明治20)に竣工した二連の円弧のアーチをした、総かこう岩造りの眼鏡橋は、現在では一般参賀の時に渡ることができますが、かつては皇族関係者や国賓、大公使しか通行できませんでした。

23) 東京名勝三十六景 皇城二重橋真景

尾関トヨ 年代不明

24) 東京名勝会 宮城御出門二重橋ノ図

歌川国利 1889年(明治22)

新橋停車場**25) 東京名勝三十六景 新橋停車場真景**

尾関トヨ 年代不明

26) 新橋ステーション

小林清親 1881年(明治14)

参謀本部

レンガ造り三階建ての建物は、イタリア人G・V・カペレッティ設計によるもので、現在の国会前庭園の場所にありました。

正面上部には大時計が掲げられており、展示作品には描かれていませんが、門の上に設置されていたガス燈は、当館1階でご覧頂けます。

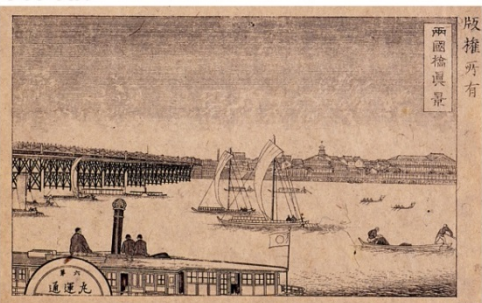
27) 東京名勝三十六景 陸軍参謀本部真景

尾関トヨ 年代不明

28) 古今東京名所(上) 外さくら田弁慶堀

(下) 外桜田陸軍参謀本部

歌川広重(三代) 1883年(明治16)

両国橋**29) 東京名勝三十六景 両国橋真景**

尾関トヨ 年代不明

**30) 東京両国通運会社川蒸気往復盛栄真景之図**

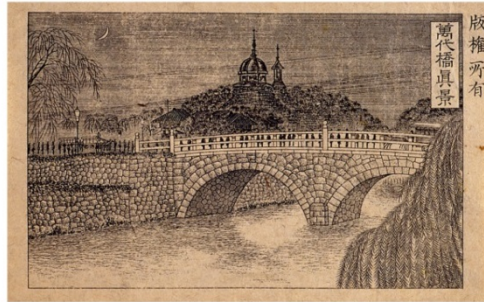
歌川重清 年代不明

ニコライ堂

作品中央に見える神田川に架かる二連アーチの石橋が、萬世(萬代)橋(よろずよばし)になります。

この時代に描かれた作品の主題の一つに、尖塔と八角形のドームを頂くニコライ堂(正式名: 東京復活大聖堂)があります。

1891年(明治24)に竣工した建物のため、銅版画作品に描かれた建物は、建設途中の様子を描いていることが分かります。

**31) 東京名勝三十六景 萬代橋真景**

尾関トヨ 年代不明

32) 東京大日本名勝之内

自萬世橋眺望ニコライ会堂景

勝山英三郎 1891年(明治24)

向島墨堤**33) 東京名勝三十六景 向島花見真景**

尾関トヨ 年代不明

34) 東京三絶景 墨堤之桜花

矢島徳三郎 1890年(明治23)

大丸**35) 東京名勝三十六景 大丸呉服店真景**

尾関トヨ 1890年(明治23)

**36) 日本橋区大伝馬町参丁目 大丸屋呉服店繁栄図**

井上安治 1886年(明治19)

国会議事堂

両作品に描かれているのが初代の議事堂で、1890年(明治23)に竣工しましたが、わずか二ヶ月で焼失してしまいました。

現在永田町に建つ国会議事堂が1936年(昭和11)に建設されるまで、国会は仮議事堂で開催されていました。

45年あまりの仮議事堂時代の後、80年近くの歴史を現在の建屋が刻んでいます。

37) 東京名勝三十六景 国会議事堂真景

尾関トヨ 年代不明



38)大日本帝国 国会議事堂
歌川国利 1890年(明治23)

高輪蒸気車

品川駅を目指して新橋駅を出発した蒸気機関車は、高輪付近では作品のように、海上に築堤した線路を進みました。

鉄道布設工事の際、線路用地として高輪付近の土地が入手できず、代替策として取られた方法でした。現在では海岸の埋め立てが進み、線路は完全に街中を通る形になりました。

39)東京名勝三十六景 高輪汽車進行真景
尾関トヨ 年代不明

40)東京名勝之内 高輪蒸気車鉄道全図
歌川国輝(二代) 年代不明

第三回内国勸業博覧会

上野で三回目となる内国勸業博覧会は1890年(明治23)に開催され、現在の噴水広場付近に入場口と展示棟を建設し、約四ヶ月の開催期間に100万人を超える人々を集めました。

特筆すべき展示品物としては、日本初の電車の実演が東京電燈会社により行われ、現在の国立科学博物館あたりより、東京文化会館あたりまでの区間で運行されました。

41)東京名勝三十六景 内国大博覧会真景
尾関トヨ 年代不明

42)上野公園博覧会之図
歌川国政(五代) 1890年(明治23)

日本橋

日本の道路の起点でもある日本橋ですが、1603年(慶長8)の開架以来、記録に残るだけで19回の改架が行われました。

作品に描かれている木造の橋は1873年(明治6)に改架された橋で、西洋式のトラス構造でした。

1875年(明治8)には親柱にガス燈が設置され、鉄道馬車から市電へと交通量の変化や橋の老朽化により、1911年(明治44)に現在の石橋へ改架されました。



43)東京名勝三十六景 日本橋真景
尾関トヨ 年代不明



44)東京名所之内 日本橋真景
小林幾英 1886年(明治19)

浅草寺

45)東京名勝三十六景 浅草観音真景
尾関トヨ 年代不明

46)東京名所之内 浅草金龍山観世音之全図
歌川広重(三代) 1884年(明治17)

おもな参考文献

図説 川の上の近代 一通運丸と関東の川蒸気船交通史一
川蒸気船合同展実行委員会 編 2007年
ふるさと東京 江戸風物誌 佐藤 高 朝文社 2006年
中央区の橋・橋詰広場 中央区委員会 1998年
東京の橋 一生きている江戸の歴史一
石川悌二 (株) 新人物往来社 1977年
図版 明治の地図で見る 鹿鳴館時代の東京 (株) 学習研究社 2007年
東京の近代洋風建築 東京都 1991年

GAS MUSEUM がす資料館 企画展ご案内郵送申込について

ご来館ありがとうございます。これから3ヶ月ごとに開催されます、「GAS MUSEUMがす資料館 企画展」のご案内はがきの郵送をご希望の方は、官製ハガキに ①氏名 ②連絡先住所 ③年齢 ④電話番号 ⑤感想・意見 ⑥今後希望する企画展、をご記入の上、下記の住所までお申し込みください。
次回より約1年間、毎企画展ごとにご案内ハガキを無料で郵送します。

(ハガキ持参で来館された方は、そのまま継続して登録されます)

〒187-0001 東京都小平市大沼町4-31-25 GAS MUSEUMがす資料館「ご案内ハガキ」係

TEL(042)342-1715 FAX(042)342-8057

《当館のお客情報(個人情報)は、当館イベント運営に必要な業務を含め、当館に関連する企画、及びサービスのご案内のために使用いたします。》